



JPX-NIKKEI Mid Small

# オルガノ株式会社 個人投資家さま向け会社説明会資料

---

(証券コード：6368)

2023年8月23日

# 本日の説明内容

---

1. 会社概要
2. オルガノの技術と事業展開
3. オルガノの中長期戦略
4. 株価の動向と株主還元の考え方

# 本日の説明内容

---

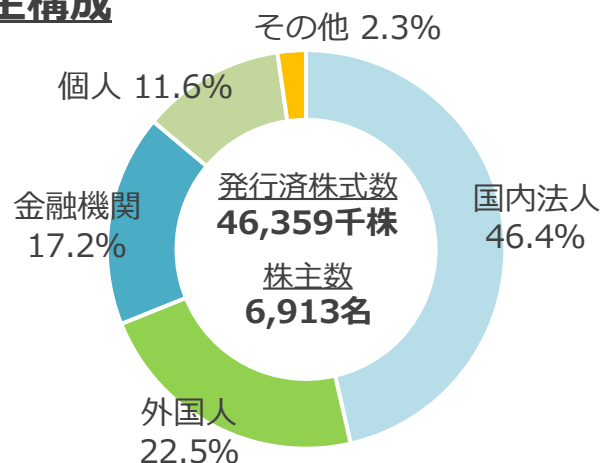
1. 会社概要
2. オルガノの技術と事業展開
3. オルガノの中長期戦略
4. 株価の動向と株主還元の考え方

# 会社概要：概要と株主構成

## ■ 会社概要

社名	オルガノ株式会社
本社所在地	東京都江東区新砂1丁目2番8号
設立	1946年5月1日
資本金	8,225 百万円
従業員数	2,506名（連結）
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場

## ■ 株主構成



## ■ 大株主（上位10名）

（2023年3月31日現在）

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
東ソー（株）	20,379	44.28
日本マスタートラスト信託銀行（株）（信託口）	4,190	9.11
（株）日本カストディ銀行（信託口）	2,317	5.03
DZ PRIVATBANK S.A. RE INVESTMENTFONDS	871	1.89
KBC BANK NV - UCITS CLIENTS NON TREATY	870	1.89
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223	506	1.10
（株）みずほ銀行	464	1.01
VICTORY TRIVALENT INTERNATIONAL SMALL-CAP FUND	395	0.86
BNYMSANV RE BNYMSANVDUBRE LEGAL (AND) GENERAL UCITS ETF PLC	393	0.85
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505253	379	0.82

※持株比率は自己株式(337千株)を控除して計算しております

# 会社概要：経営理念とビジョン

## ■ 経営理念

オルガノは、水で培った先端技術を駆使して  
未来をつくる産業と社会基盤の発展に貢献するパートナー企業としてあり続けます

## ■ 長期経営ビジョン

付加価値の高い分離精製・分析・製造技術を基に事業領域と展開地域を拡大し、  
産業と社会の価値創造と課題解決を推進する製品・サービスを絶えず提供します

昨日までのやり方を、明日に向けて、今日変える人をつくり、  
一人ひとりが働きがいと活力に満ちた企業を構築します

## ■ サステナビリティ方針

わたしたちオルガノは、ステークホルダーとともに、  
未来に向けて持続可能な社会の実現と企業価値の向上を目指します



代表取締役社長 山田正幸



**E** 水で培った最適化技術\*で、水環境保全や温暖化防止に  
貢献する環境配慮型製品・サービスを提供します

**S** 人権および多様な価値観・個性を尊重し、従業員ひとり  
一人が成長し活躍する職場づくりを推進します

**G** 全てのステークホルダーとの対話と連携を重視し、  
誠実かつ公正な企業活動を遂行します

\*水で培った最適化技術には、水処理に関わる分離・精製、分析技術やエンジニアリングにおける技術の追求と、  
その組み合わせによって社会のニーズに合致した最適なシステムやサービスを提供するという意味が込められています

# オルガノの事業構成

## 水処理エンジニアリング事業

### | プラント事業



純水・超純水設備  
排水処理・回収設備  
有価物回収設備  
プロセス関連設備

### | ソリューション事業



設備メンテナンス  
運転管理・包括契約  
設備増強・改造工事  
水処理加工受託

### | 事業別売上高

500億円 (45%)	615億円 (55%)
----------------	----------------

【ソリューション事業】 【プラント事業】

### | 顧客分野別売上高

754億円 (68%)	243億円 (22%)	117億円 (10%)
----------------	----------------	----------------

【電子産業】 【一般産業】 【電力・上下水】

## 機能商品事業

### | 水処理薬品事業



排水・冷却水・洗浄・  
RO膜・ボイラ等処理剤

### | 標準型水処理機器・フィルタ事業



純水・超純水装置  
浄水フィルタ

### | 食品事業



食品添加剤・加工剤  
食品素材

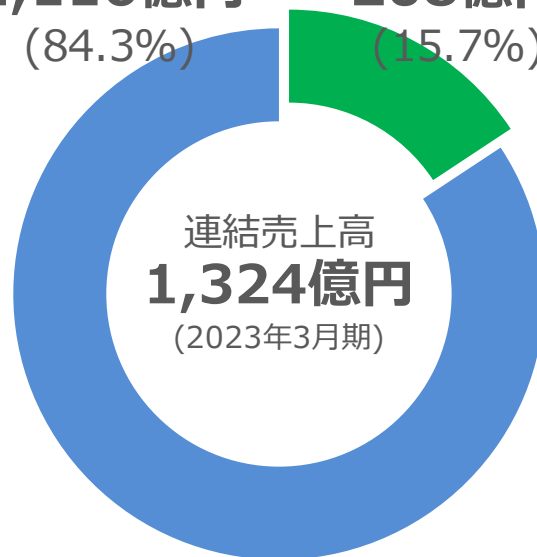
### | 事業別売上高

80億円 (39%)	70億円 (34%)	57億円 (27%)
---------------	---------------	---------------

【水処理薬品】 【標準機器・  
フィルタ】 【食品】

1,116億円  
(84.3%)

208億円  
(15.7%)



※金額は23.3期売上高、%は売上構成比率

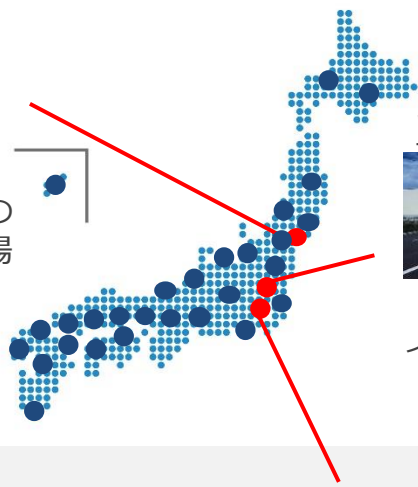
# オルガノのネットワーク

## 国内拠点・ネットワーク

### いわき工場



大型水処理設備の  
ユニット組立工場



### つくば工場



世界最大級の  
イオン交換樹脂  
精製工場

### 国内営業・サービス拠点 開発センター(相模原市)



全国に営業・サービス  
ネットワークを展開



最先端の水処理・分離精製  
技術の研究開発を推進

## グローバル・ネットワーク

### ■ 東南アジア

マレーシア・タイ  
ベトナム・インドネシア

### ■ 北米

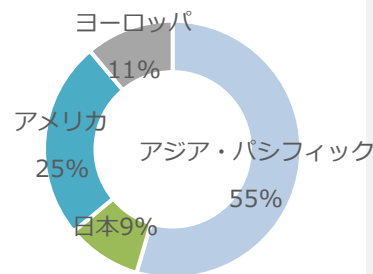
【米国】オルガノUSA

### ■ 東アジア

中国・台湾



### 地域別半導体生産シェア (2023年 WSTS調べ)



### アメリカに現法設立(21年9月)

これまで日本・中国・台湾や  
マレーシアなど電子産業分野  
の集積地を中心に進出

顧客工場の進出に合わせて  
2021年9月に米国現法設立、  
アリゾナに拠点を設置

# オルガノの歩み

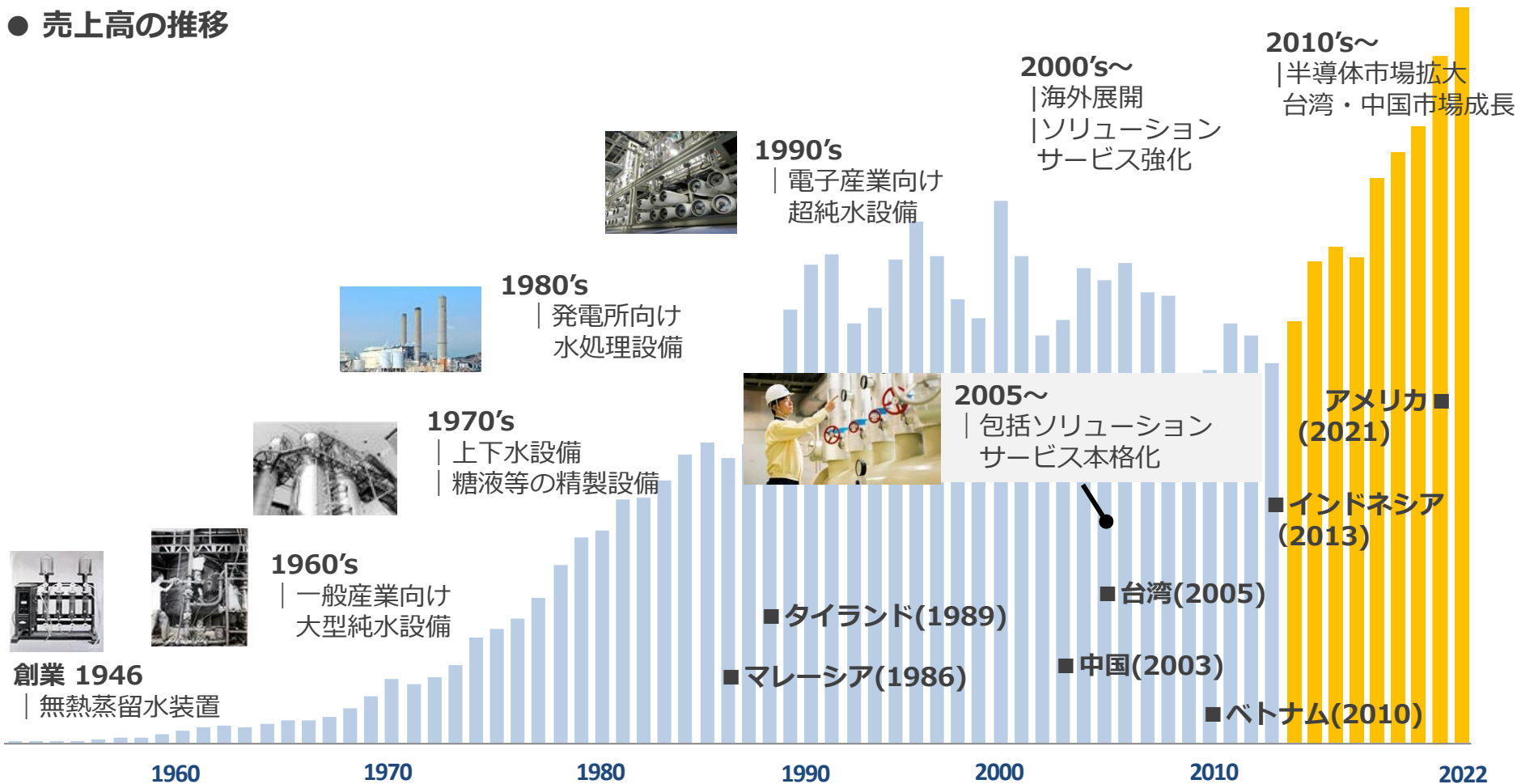
創業期

成長期

成熟期

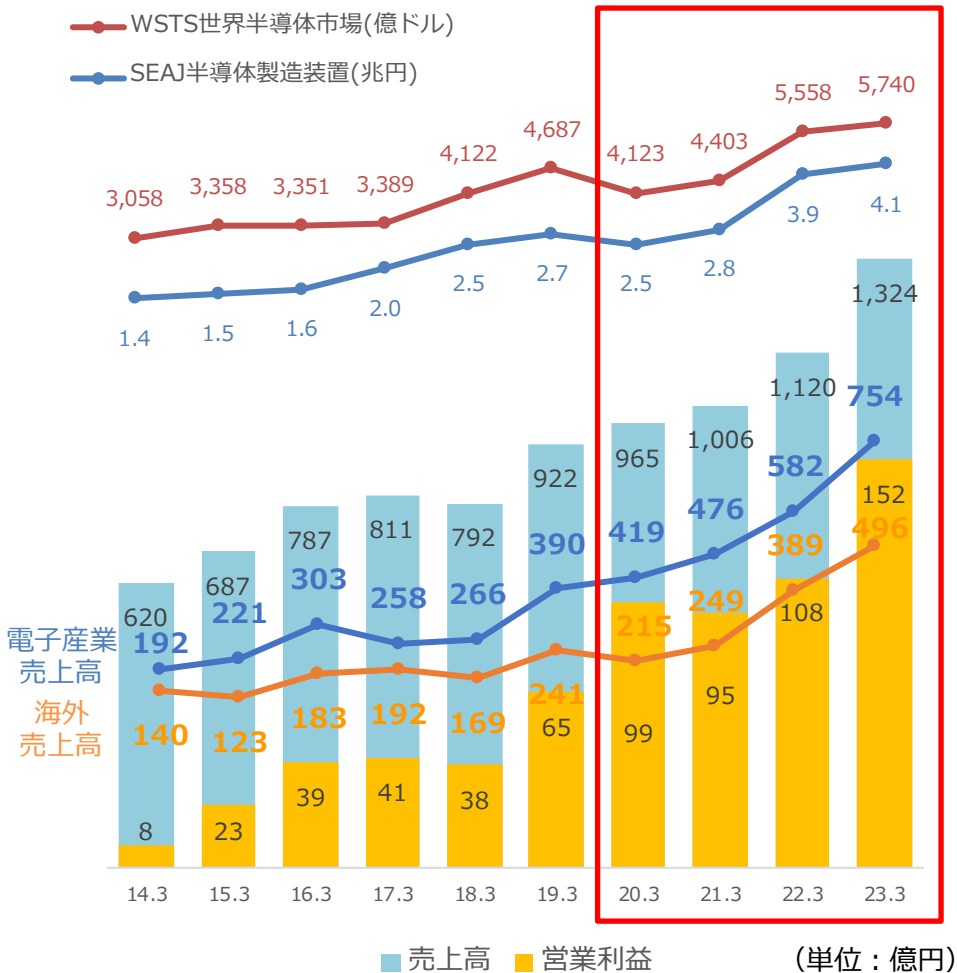
飛躍期

## ● 売上高の推移





# 飛躍期～直近の業績拡大の背景



## 電子産業分野の伸長

2018年以降の半導体市場の伸びを背景に当社業績も伸長。

引き続き国内外の電子産業分野向けを中心とした成長が続くものと期待。

## 台湾・中国市場の拡大

地域別では台湾・中国市場が大きく成長。ファウンドリーやメモリなど各種半導体分野の投資が拡大。台湾での超純水装置は大きなシェアを占める。

## 採算性の改善

比較的利益率の高いソリューション・機能商品の伸長に加え、プラント部門の受注採算性改善やコストダウンが奏功。

# 本日の説明内容

---

1. 会社概要
2. オルガノの技術と事業展開
3. オルガノの中長期戦略
4. 株価の動向と株主還元の考え方

# オルガノの技術

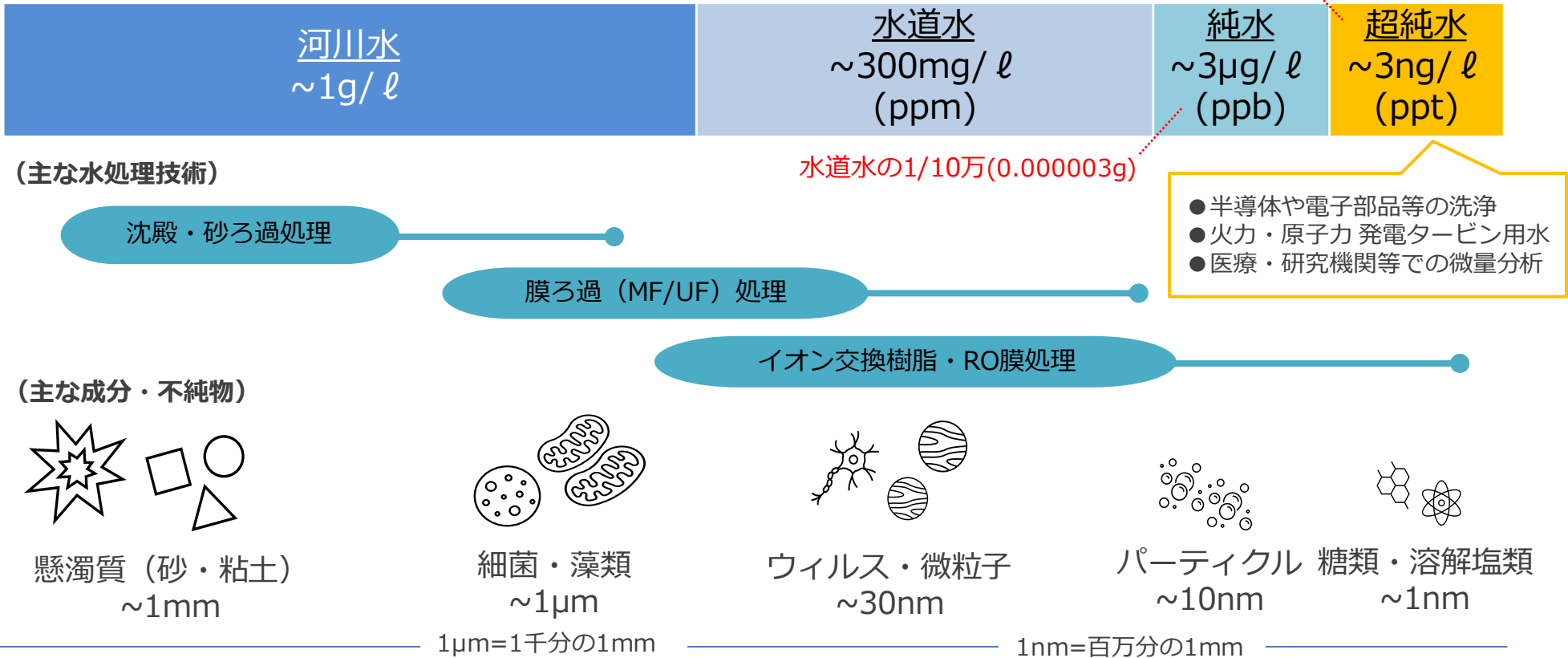
各種技術を組み合わせたシステムで必要な物質を分離・精製



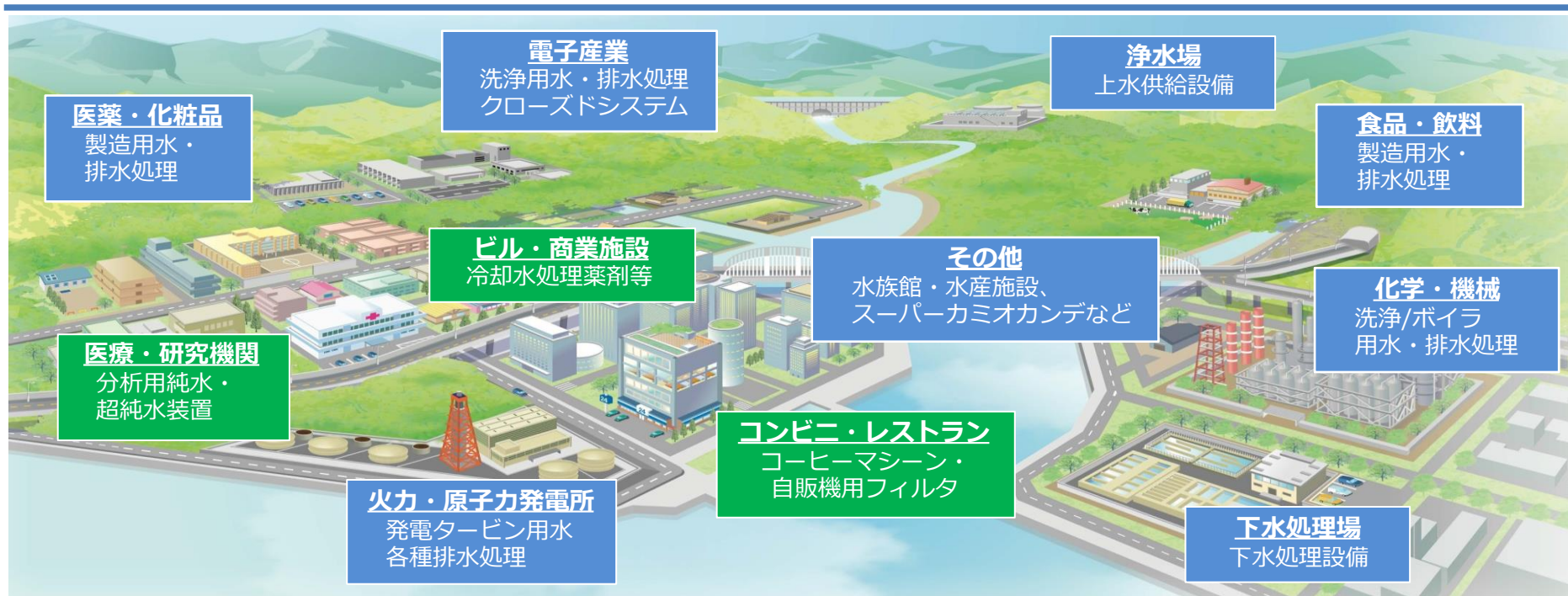
# 純水・超純水とは・・・？

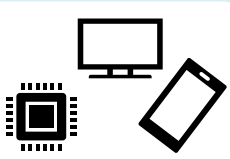




水中の成分・不純物を極限まで除去することで、  
製品の歩留まり・品質向上、設備の安定運転などに貢献

## ■ 1ℓ 当たりの成分・不純物量比較



# 生活と産業を支えるオルガノの水処理技術



水処理エンジニア事業			機能商品事業		
<b>電子産業</b>  半導体・パネル・ 電子部品等	<b>一般産業</b>  医薬・化粧品、 食品・飲料、 機械・化学等	<b>社会インフラ</b>  火力・原子力 発電所、上下水道	<b>水処理薬品</b>  各種製造業・ ビル/商業施設	<b>標準機器・フィルタ</b>  医療・研究機関 コンビニ・レストラン	<b>食品</b>  食品/飲料・ 介護/健康食品

# 水処理エンジニアリング事業：事業のサイクル

## 研究開発・営業活動

- ・最先端技術の案件など客先と共同で実験を行うケースもあり
- ・新規案件だけではなく、納入設備の改造・増強を提案するケースも

## ソリューション事業

- ・納入した設備に対する**メンテナンスサービスはリピート率高い**
- ・当社が設備を保有する加工受託契約や運転管理・包括メンテナンス契約などのソリューション事業を展開



## プラント事業

### 設備規模

- ・水処理設備の一件あたり投資規模は**数千万円～百億円超**

### 施工期間

- ・大型設備の施工期間は**12～24ヶ月程度**


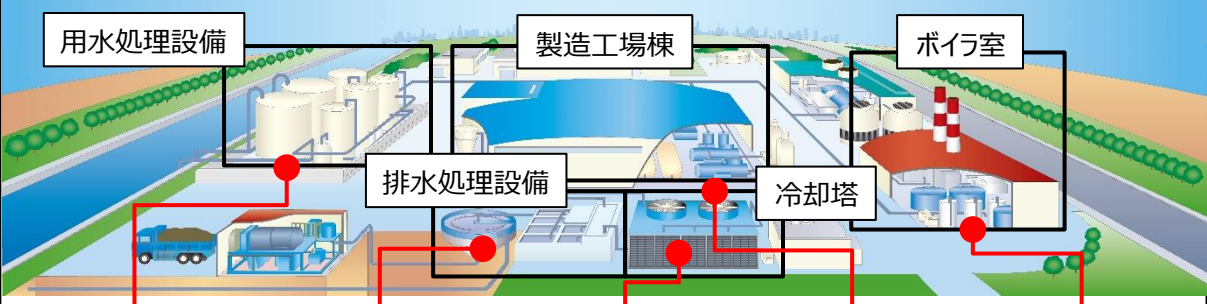

### 受注・売上の計上

- ・**受注は契約時点**で計上
- ・**売上は工事進捗度**に応じて計上

### 採算性の管理・動向

- ・一定の追加コストのリスクを工事予算に織り込んで管理
- ・採算性は市場の設備投資動向にも左右される  
過去には投資減少による競争激化で利益率低下も

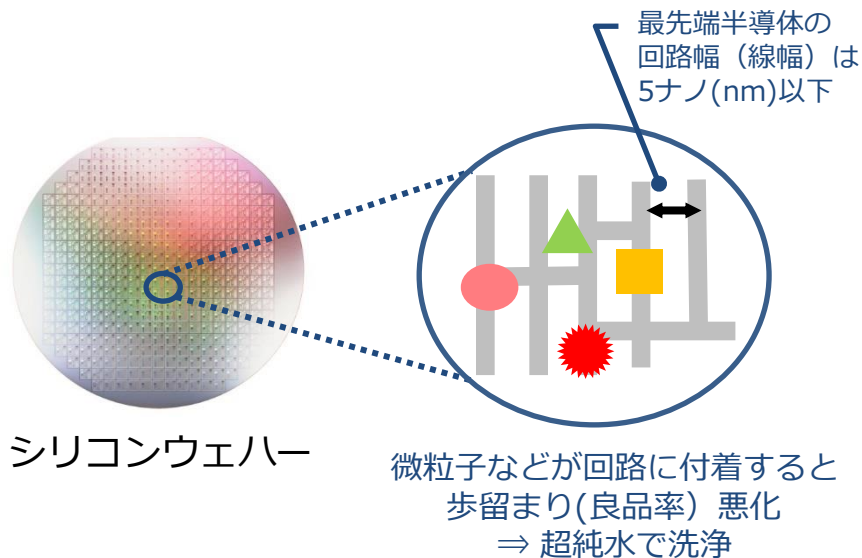
# 機能商品事業・事業概要

<h2>標準型機器・フィルター</h2>	<h2>水処理薬品</h2>
<p>標準型機器</p> <p>研究機関・病院等での実験・分析・検査などに用いられる高純度の水を提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆超純水製造装置</li> <li>◆純水製造装置</li> </ul>  <p>超純水装置 ピュアライトαシリーズ</p>	 <p>RO水処理薬品 スライムコントロール剤 スケール防止剤等</p> <p>排水処理薬品 凝集剤・栄養剤・ 消泡剤等</p> <p>冷却水処理薬品 スライムコントロール剤 分散剤等</p> <p>洗浄薬品 化学洗浄剤・ スライム剥離剤等</p> <p>ボイラ水処理薬品 脱酸素剤・分散剤・ 清缶剤等</p> <p>工場やビルでさまざまな用途に 最適な水質管理を実現できる薬品</p>
<p>フィルター</p> <p>飲料水やコーヒーなどに 適した美味しく安全な水</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆コンビニ・厨房・自販機向け 浄水フィルター等</li> </ul>  <p>オルガノフィルター D-4D</p>	<h2>食品加工材</h2> <p>高齢者食、介護食市場や弁当・惣菜などの中食市場、 機能性食品・栄養補助食品などに向けた食品素材・食品添加剤など 時代の要請に応える食品加工材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ゼリー、たれ等向けのゲル化剤、増粘剤</li> <li>◆たん白、食物繊維等の食品素材等</li> </ul>

# 半導体と水

多くの工程が必要な半導体製造プロセスのうち、3割程度を洗浄工程が占めると言われています。ウェハーの製造、成膜、エッチング、レジストなどの前後で繰り返し行われる洗浄プロセスに超純水が用いられています

超純水で歩留まり改善に貢献



どこが	どれだけ	すぐれた技術力と価値
不純物濃度	1ppt以下	質量濃度は1兆分の1。オリンピック競泳50mプール(2,500m <sup>3</sup> )の超純水に溶け込んだ不純物の量は僅か耳かき1さじ(2.5mg)分
製造水量	1000 Ton/時	大容量の高性能ポンプや大口径配管を使用。オリンピック競泳50mプール(2,500m <sup>3</sup> )が2時間半で満杯に
水の回収率	80%	半導体工場では洗浄用水など大量の水を使用するが、最先端の工場では80%以上の水を回収し再利用。水のリサイクルだけでなく、排水中に含まれる有価物を回収する技術も活用

オルガノはウェハーやチップの洗浄に用いられる超純水の供給設備、洗浄や他の製造工程で生じる排水を無害化・廃棄物を低減するための処理設備、水のリサイクルシステム、排水からフッ素・レアメタルなどの有価物を回収・再資源化するシステムなどを提供しています



# スーパーカミオカンデに超純水を供給

## 超純水製造装置

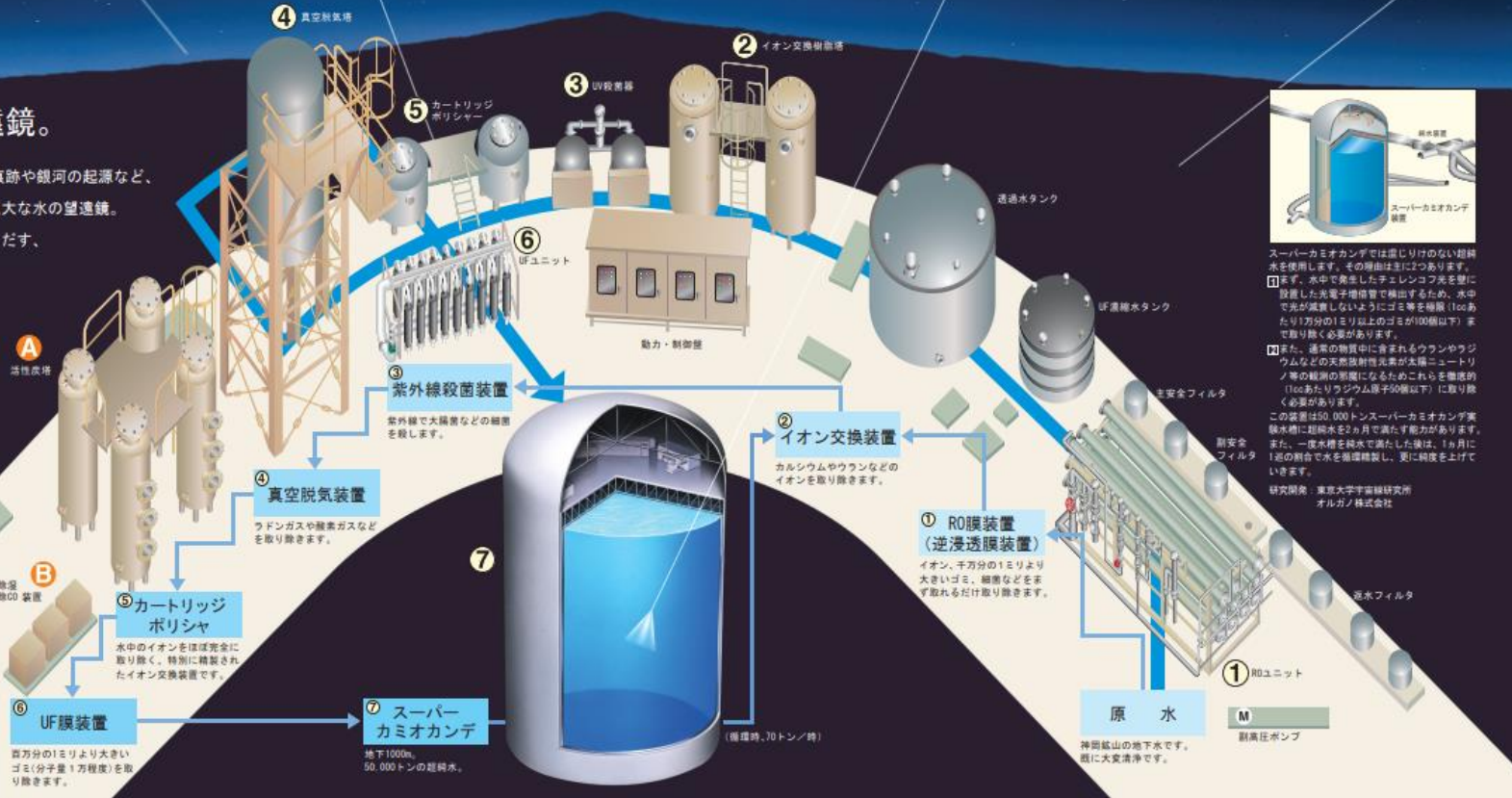
### 地下1000mの、水の望遠鏡。

「スーパーカミオカンデ」は、ビッグバンの特徴や銀河の起源など、宇宙からの情報をとらえるための、いわば巨大な水の望遠鏡。ここには、オルガノの純水製造装置が作りだす、50,000tの超純水が常に満たされています。



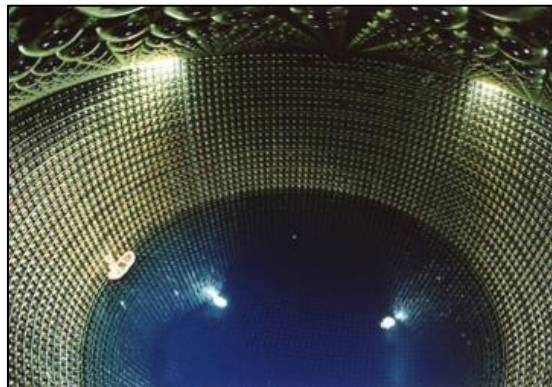
#### A B ラドン除去空気製造装置

ラドンガスを百万分の1まで除去した空気を、スーパーカミオカンデ実験水層上部に送り込みます。こうすることで、ラドンガスが空気中から水中に溶け込むのを防ぎます。



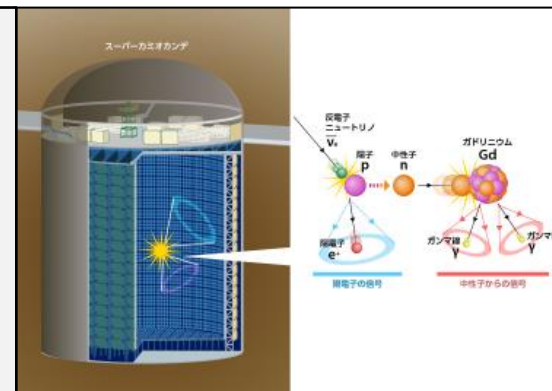
スーパーカミオカンデでは厚じけのない超純水を使用します。その理由は主に2つあります。  
 ①まず、水中で発生したチレンコフ光を壁に設置した光電子増倍管で検出するため、水中で光が減衰しないようにごみを排除(1ccあたり1万分の1ミリ以上のゴミが100個以下)まで取り除く必要があります。  
 ②また、通常の物質中に含まれるウランやラジウムなどの天然放射性元素が中性子ニュートリノ等の検出の邪魔になるためこれらを無放射(1ccあたりラジウム原子50個以下)に取り除く必要があります。  
 この装置は50,000トンスーパーカミオカンデ実験水層に超純水を2ヶ月で満たす能力があります。また、一度水層を純水で満たした後は、1ヶ月に1回の割合で水を循環精製し、更に純度を上げていきます。  
 研究開発：東京大学宇宙線研究所  
 オルガノ株式会社

# ニュートリノ観測にも超純水が貢献



オルガノはニュートリノ研究を行う世界最大の  
水チェレンコフ宇宙素粒子観測装置”スーパー  
カミオカンデ”に50,000tの超純水を供給。  
ニュートリノ研究では2002年に小柴先生、  
2015年に梶田先生がノーベル賞を受賞

2020年には東京大学とオルガノが共同開発  
した特殊なイオン交換樹脂によって、 $Gd^{3+}$ 、 $SO_4^{2-}$  を保持したまま他のイオン除去に成功。  
ガドリニウム導入によるニュートリノの観測  
感度向上に貢献



出典：東京大学宇宙線研究所 神岡宇宙素粒子研究施設ホームページより

# 本日の説明内容

---

1. 会社概要
2. オルガノの技術と事業展開
3. **オルガノの中長期戦略**
4. 株価の動向と株主還元の考え方

# 中長期経営計画 “ORGANO2030”

## グローバルでのパートナー企業へ

- 半導体向け水処理のグローバル・トップへ
- 薬品・機能材料のファーストチョイス・ラインナップ拡充
- サステナビリティ目標の達成

### 長期計画(～2030)

売上高	2,000億円
営業利益	300億円
(%)	15%
ROEは安定的に	12%以上

### 中期計画(～2026.3)

売上高	1,700億円
営業利益	185億円
(%)	10.9%
ROE	12.6%

## 新たなビジネス・展開地域の拡大

- 米国での事業拡大・韓国への進出
- 薬品など機能商品の海外展開拡大
- 新たなソリューションサービスの拡充・展開

### 次期計画(～2024.3)

売上高	1,500億円
営業利益	160億円
(%)	10.7%
ROE	12.6%

## 業務の効率化と新たなビジネス創出

- エンジニアリング業務の効率化・キャパシティ拡大
- 新たな水処理・分離精製技術・ソリューションサービスなどの開発強化
- 各国・地域での事業体制拡充

# 中期経営計画とサステナビリティ目標・マテリアリティ

## 中期経営計画

### 重点分野

#### 電子産業

米国・台湾・中国など  
グローバル展開の拡大

#### 水処理薬品

バリューチェーン  
・海外展開強化

#### 機能材料

サプライチェーン強化  
・差別化商品拡充

### 体制整備・拡充

#### エンジニアリング

自動化・効率化の推進  
キャパシティ拡大

#### ソリューション サービス

海外展開・サービス  
メニュー拡充

#### 研究開発

開発基盤の強化と  
新事業創出

## サステナビリティ目標・マテリアリティ

### 継続的な事業成長の実現

持続可能な地球環境への貢献

技術力を活かした  
高付加価値製品・サービスの提供

### 事業基盤の構築

ガバナンス強化と  
コンプライアンスの徹底

多様な人材が活躍し  
働きがいのある職場づくり

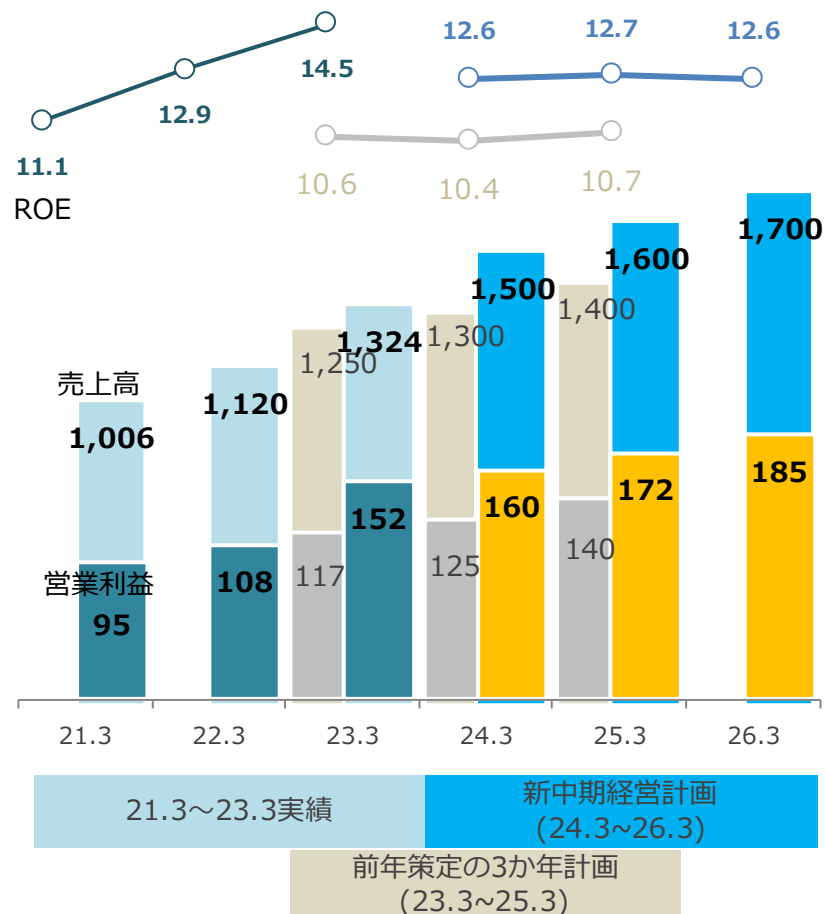
サプライチェーン  
マネジメントの強化



# 中期経営計画：業績の目標

(単位：億円・%)

売上高・営業利益・ROEの推移



## ●売上規模拡大

高水準の受注残を背景に電子産業分野を中心に1,700億円まで売上を拡大。安定収益源であるソリューション・機能商品事業も強化

## ●成長投資と安定的な収益計上

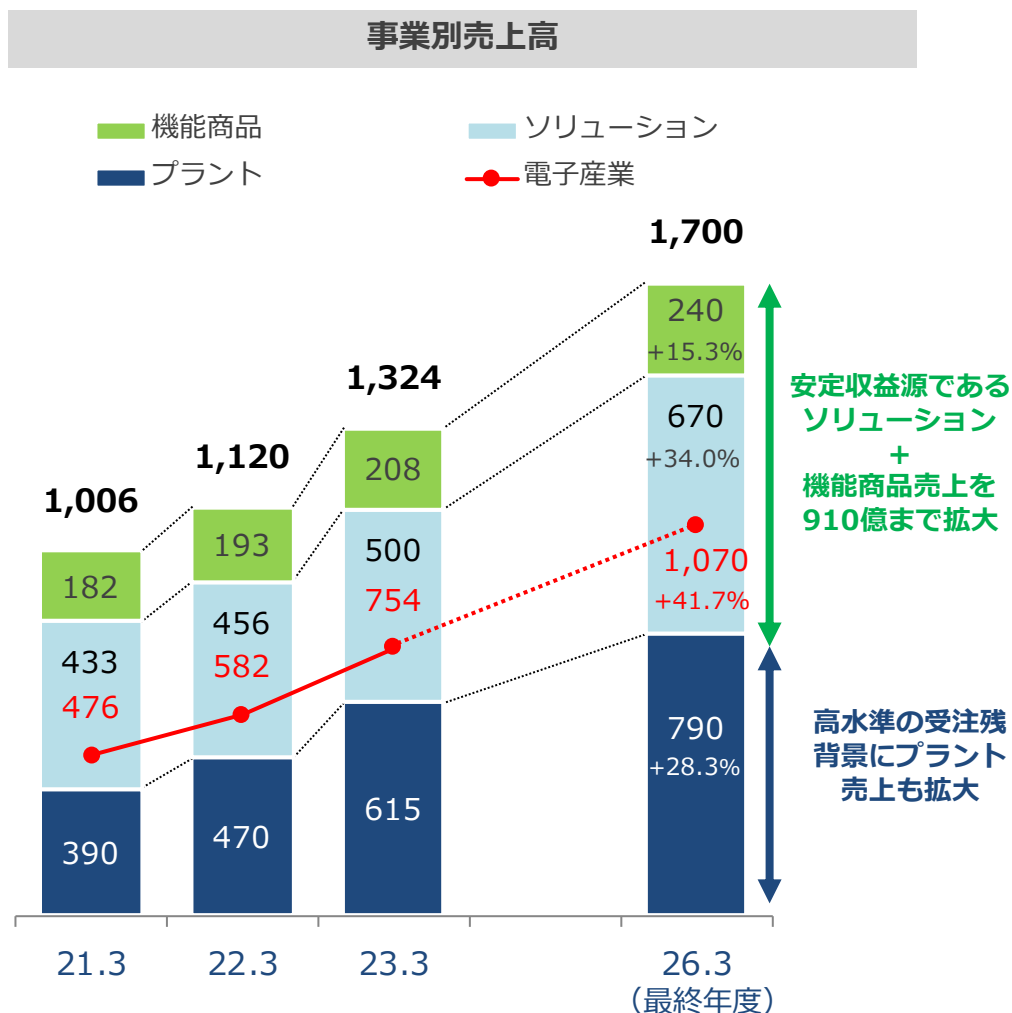
キャパシティの拡大や成長への投資と安定的な利益計上を両立。ROEは安定的に12%以上を計上

## ●サステナビリティ目標への取組み

継続的な事業成長の実現と事業基盤の構築に向けたサステナビリティ目標の達成に取り組む

# 中期経営計画：事業別売上高

(単位：億円・%)



## ●電子産業分野

プラント・ソリューションとも電子産業分野を中心に拡大

## ●プラント事業

日本・台湾・中国・米国など各国で半導体向けの大型設備納入

## ●ソリューション事業

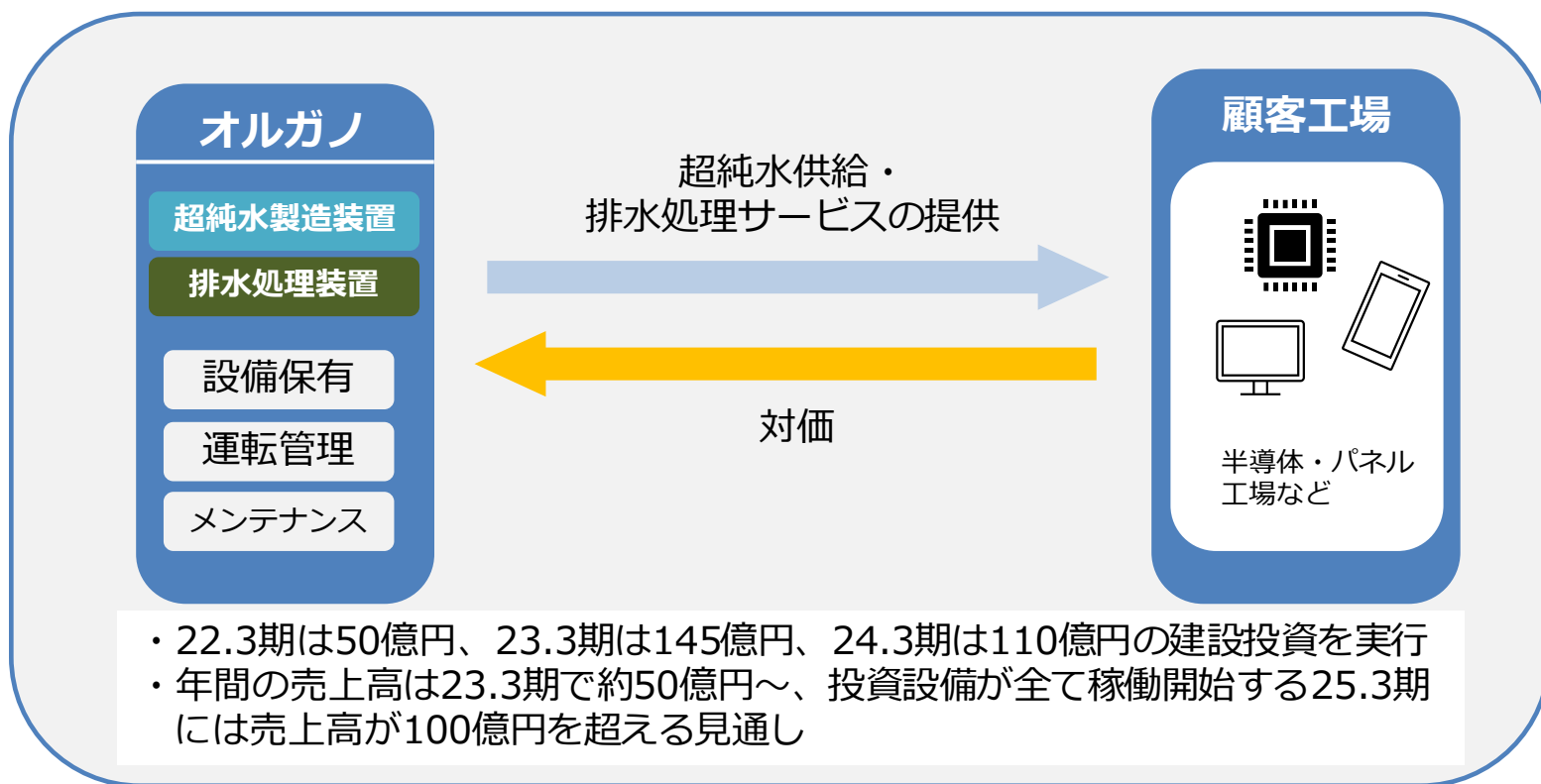
設備保有型サービスの拡大  
設備の自動運転・遠隔監視などデジタル・ソリューションサービスを強化

## ●機能商品事業

水処理薬品や小型機器を中心に海外での拡販を強化

# ソリューションサービスの拡大：設備保有型サービス

顧客工場内にオルガノが自社設備として水処理設備を設置  
運転管理・メンテナンスを実施し、水処理サービスの対価を受領





# ソリューションサービスの拡大：データ活用

デジタル技術を活用したソリューションサービスを強化  
コストダウンや省エネ・省力化・脱炭素などの顧客価値を提供

## 遠隔監視サービス 「オルトピアJ」の展開



上下水道施設向けの遠隔監視システム「オルトピアJ」の販売が好調に推移、電子産業・一般産業分野への展開を強化。運転データの活用による効率化・省エネや設備改造などの提案型ソリューションサービス拡大を図る

## 水の熱を利用した省エネ・脱炭素 水熱利用システム



ヒートポンプ技術を活用し、工場等で使用される水の熱をエネルギーとして利用。  
50%以上の消費電力・CO2削減を実現

※ 2016年度 省エネ大賞 省エネルギーセンター会長賞

## 冷却水処理のDXによる省エネソリューション オルスマートCW



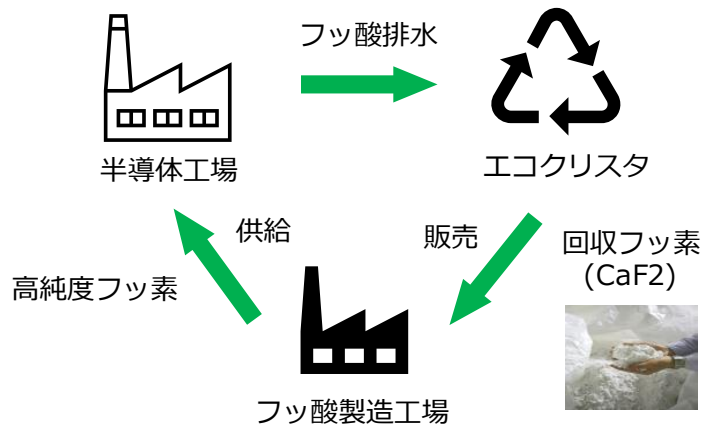
冷却水の水質、熱交換器の汚れ指標を監視し、AIによる最適薬品注入を行うことで、継続的な省エネと安定稼働を実現

※ 2022年度 省エネ大賞 資源エネルギー庁長官審査

# ソリューションサービスの拡大：サステナビリティへの貢献

## 排水からのフッ酸回収技術 エコクリスタ

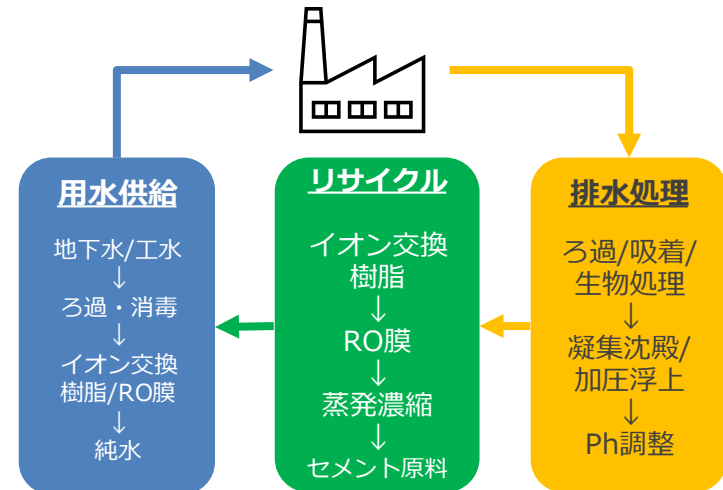
半導体製造に用いられるフッ酸を工場排水から回収。高純度のペレットとして精製し、フッ酸の原料としてリサイクル



2014年度 (一社)産業環境管理協会  
資源循環技術・システム表彰 経済産業大臣賞

## 循環型の水資源リサイクルシステム クローズドシステム

工場の排水を分別回収しリサイクル、**雨水以外の排水をゼロ**に。不純物は脱水・乾燥しセメントの原材料として再利用



第24回(2022年3月)日本水大賞 経済産業大臣賞を受賞した  
大分キャノンマテリアル社に排水回収・処理設備を当社が納入  
(引用：大分キャノン(株)水資源再利用活動  
<https://www.oita.canon/env/water.html> )

# 事業領域の拡大：水以外への分離精製技術展開

分離精製技術とは？ ・ 不要な成分を分離して除く ・ 有用成分を高純度化する

		イオン交換	ろ過	吸着	凝集沈殿	脱気	脱水
水	半導体用超純水	●	●	●	●	●	
	用水・排水処理	●	●	●	●	●	●
	排水回収		●	●	●		●
非水	糖・アルコール精製	●		●			
	LiB材精製	●	●				●

既存技術の  
応用展開



## ● リチウムイオン電池(LiB)の正極材製造に使う溶剤の精製リサイクル



	蒸留法 (従来法)	イオン交換＋膜分離(ろ過) (当社方式)
熱利用	大	小
精製場所	工場外(外部へ輸送)	工場内(輸送なし)

CO<sub>2</sub>排出削減 と省資源に貢献

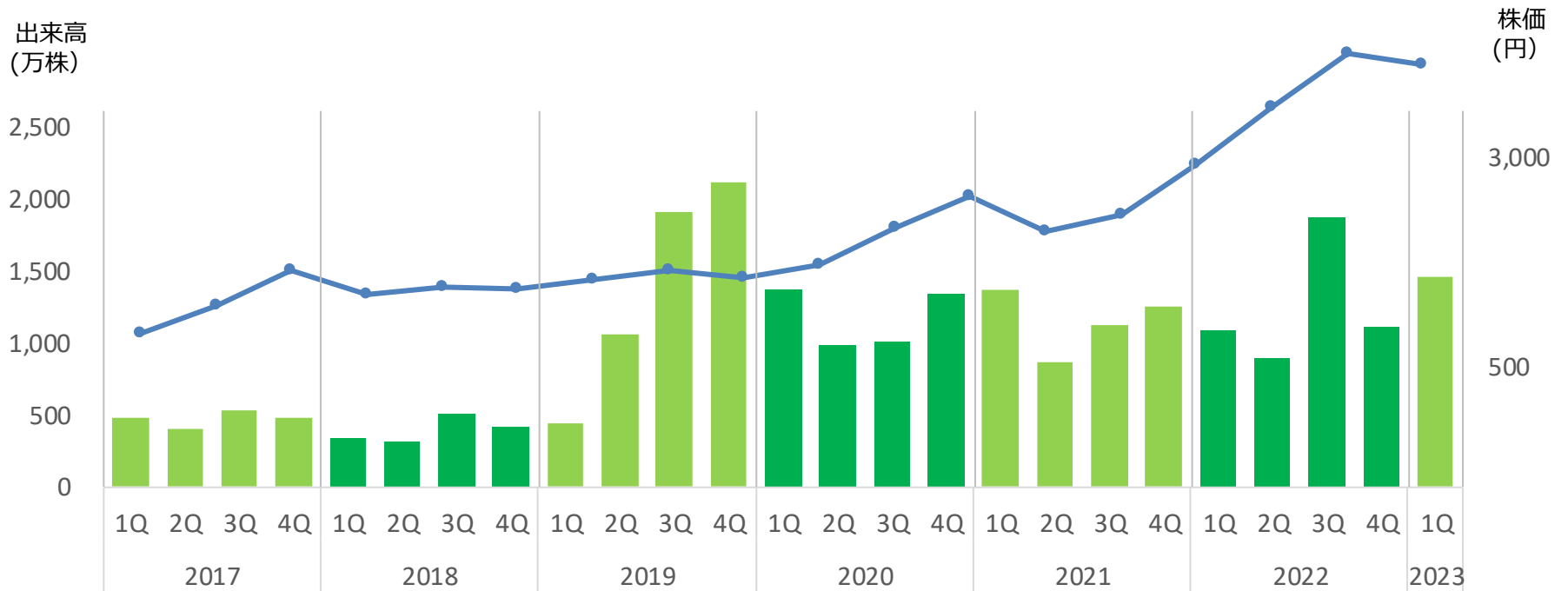
# 本日の説明内容

---

1. 会社概要
2. オルガノの技術と事業展開
3. オルガノの中長期戦略
4. 株価の動向と株主還元の考え方

# 株価の動向

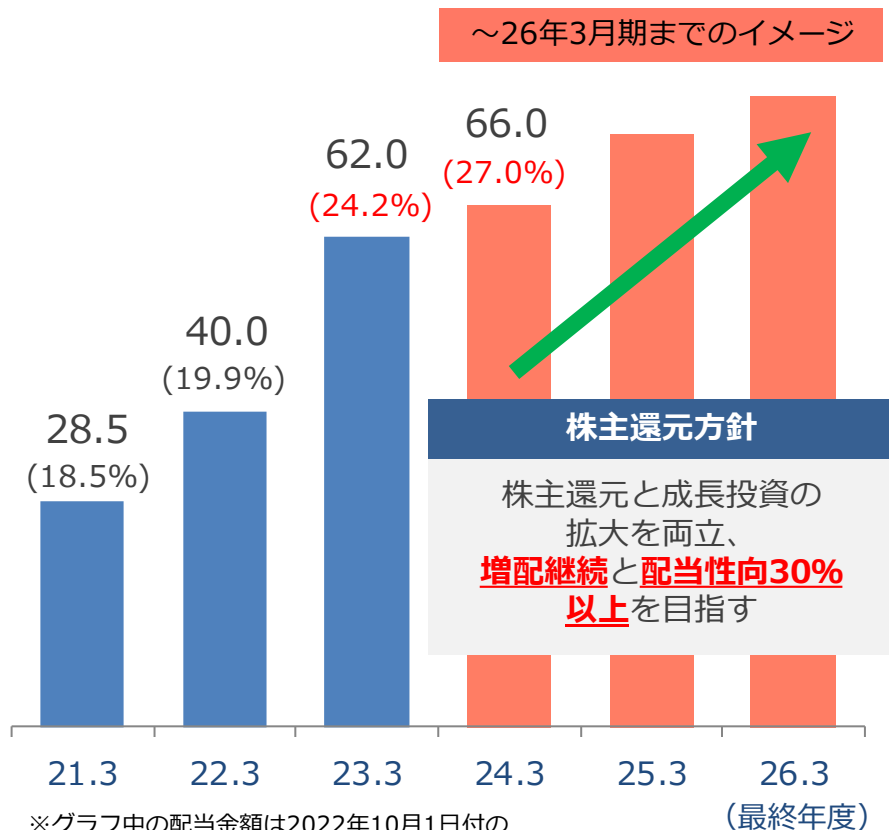
株価	単元株式数	必要投資金額	市場
4,115円 (2023年7月31日現在)	100株	411,500円	東証 プライム市場
2022年10月1日付で1株→4株の分割を実施			



# 株主還元方針

(単位：円・%)

## 1株あたり配当金・配当性向の推移



※グラフ中の配当金額は2022年10月1日付の株式分割後のベースで記載しております

## ●業績改善で配当増

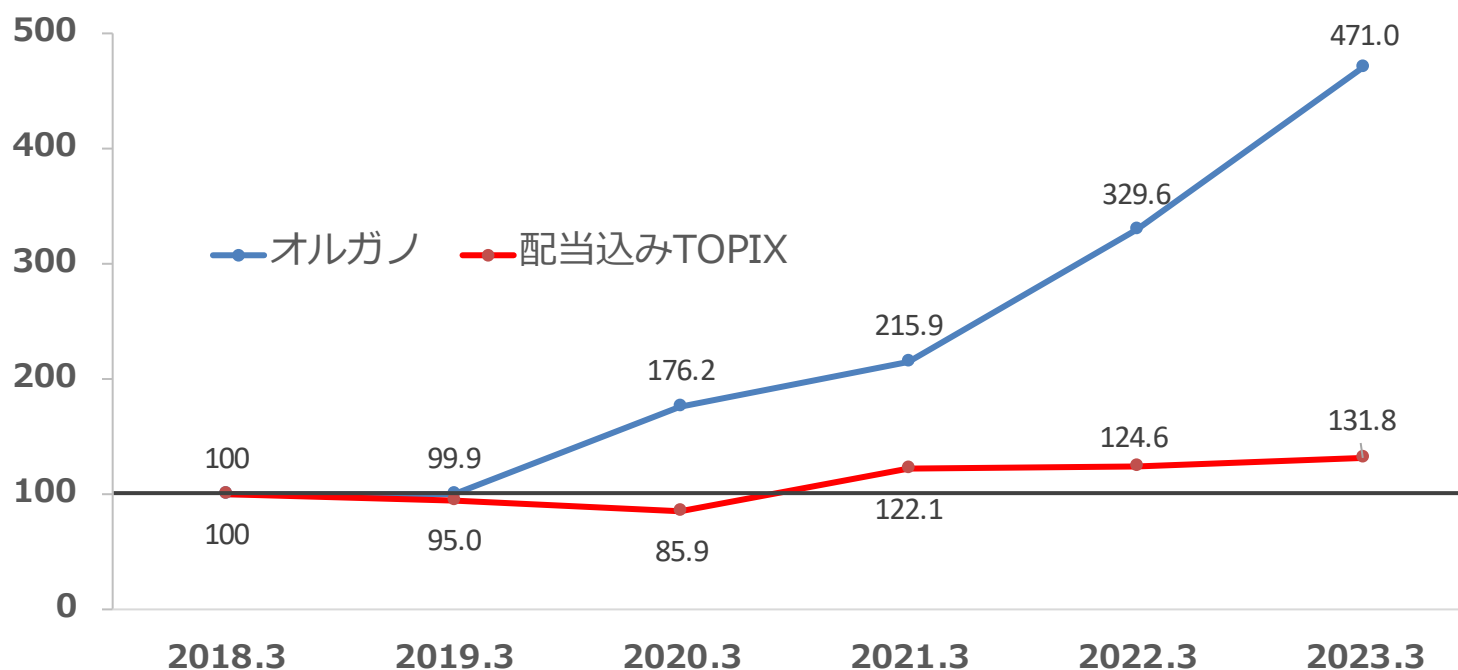
23.3期は業績改善で上期・通期とも配当額を上方修正。年間の一株当たり配当額は前期比55%増の62円まで拡大。前中計目標の配当性向25%は24.3期に達成する予定

## ●株主還元方針

現時点では配当中心の株主還元を検討。株主還元と成長投資の拡大を両立、増配継続と配当性向30%以上の水準を目指す

# オルガノのTSR(株主総利回り)推移

## 株価上昇・増配継続で TOPIXを大きく上回る利回りを達成



※2018年3月末の株価を100とした各期末株価と年間配当額  
(2019年3月期からの累計額)の指数推移

# 社外からの評価・指数への採用

## JPX-NIKKEI Mid Small

オルガノグループは、日本経済新聞社とJPX総研が共同で算出する株価指数「JPX日経中小型株指数」の構成銘柄に選定されました。

\* 2023年8月31日からは、「JPX日経中小型株指数」に加えて「JPX日経インデックス400」にも選定されることとなりました。



**FTSE Blossom  
Japan Sector  
Relative Index**



この他、Russell/Nomura Prime、S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数、野村RAFI、FTSE Blossom Japan Sector Relativeなどのインデックスに採用されており、ESG投資・パッシブ運用のベンチマークとしても評価を頂いております。



# 海外メディア掲載のご紹介

## Newsweek International (2023年6月23日発刊)

## TIME Asia (2023年7月23日発刊)



### ORGANO: Japan's Water Treatment Engineering Company Eyes Global Expansion

A leading Japanese water treatment engineering company with 70 years of experience, Organo Corporation is leveraging advanced technologies to expand its solutions for the semiconductor, plasma, energy and environmental sectors worldwide.



"We believe that our technologies, particularly as they benefit the semiconductor industry, have advantages in the U.S. that will enable the same growth there we have seen in the Asian region."

Organo Corporation was established during the initial flourishing of Japan's industrial sector shortly after World War II. Since then, the company has grown in tandem with Japanese industry to become a comprehensive water treatment engineering company developing engineering solutions used in various fields such as semiconductor, energy and pharmaceuticals. In the semiconductor industry, Organo's systems in recent decades were the establishment of its own integrated R&D center in 1994, which has served as the hub for innovation for more than 35 years. "Along with rapid economic growth in Japan after WWII, there was a huge demand for domestic water. Organo responded to this by developing technology that helped us achieve an impressive track record," says Masayuki Yamada, President of Organo Corporation. Technology such as an ion exchange resin combined with the data and know-how we have accumulated over the years has enabled us to develop a variety of water purification solutions to meet the exact needs of our customers. These solutions include Ultra-Pure Water (UPW) systems for semiconductor manufacturing,



which help to remove impurities in the manufacturing process, concentrate/dilution systems for power plants, which protect steam turbines from corrosion, distillation and purification water systems for the pharmaceutical industry, sterile water, desalination and separation systems for sugar refineries, and UPW systems for laboratory and high-purity trace analysis.

In the semiconductor industry, manufacturing is not only of final components, but the material, the manufacturing process, has created demand for a high level of purity control in water to remove microscopic impurities between the production stages. Fully certified to assure semiconductor quality, Organo's UPW systems have proven reliable in production processes for modern semiconductor manufacturers. "We do not only provide equipment capable of stable production of UPW but our ability to remove a small number of specific ions or elements is another key technology that helps our systems meet the exact requirements of our customers," says Yamada.

"We are not just a strong ally to the semiconductor industry," Mr. Yamada stresses. "We are also looking at pharmaceuticals, especially the growing industry of biopharmaceuticals. Organo has extensive experience in this field in areas such as validation which

CONTRIBUTOR BY THE WORLDWIDE



### Pure Water, Pure Technology

A successful Japanese water treatment engineering company supplies the technology and wastewater recycling sectors.



Organo's pure water systems in an Asia-to-India and Japan.

For over 75 years, the planet's most advanced natural resource—water—has been at the heart of Organo Corporation's business. Now, the specialist purification and filtration company is also working to address water to support some of the most exciting technological developments in the world. This unique Japanese company supplies ultra-pure water to technology sectors such as semiconductor manufacturing, and their process has received customers and accolades worldwide. The company has experienced strong growth in markets such as Taiwan, China and Malaysia thanks to its work with the electronics industry, while also finding new customers for its ground-breaking water and waste treatment systems. According to the company's president, Masayuki Yamada, the technology business has been a massive factor in this expansion. "Organo's overseas business is growing rapidly in Taiwan, China and Malaysia. The main driver behind this growth is the semiconductor business," says Yamada. "The semiconductor manufacturing process requires ultra-pure water. Not many companies can provide water at this level of quality, and Organo is one of the few that can," he adds. The company was established in 1946 in Saitama City, Japan, manufacturing water purification equipment using ion exchange systems and it has evolved dramatically to embrace new industries and markets while developing a diverse range of applications for its purification systems. "One of our key competitive advantages is our technology and know-how to deliver pure water at the extremely high level of purity that is so much demanded in this field," said Yamada. It's not just the semiconductor industry that is making good use of Orgo,



"Masayuki Yamada, President of Organo Corporation."

Organo's water purification systems in an Asia-to-India and Japan.



A water treatment 1,000 meters underground.



[https://www.organo.co.jp/wp/wp-content/uploads/2023/06/Japan-NW\\_90\\_report\\_ORGANO.pdf](https://www.organo.co.jp/wp/wp-content/uploads/2023/06/Japan-NW_90_report_ORGANO.pdf)

[https://partners.time.com/partners/global-kigyo/pure-water-pure-technology/?prx\\_t=zH8IAAAAAA&P8PA&utm\\_campaign=185027&prx\\_ro=s](https://partners.time.com/partners/global-kigyo/pure-water-pure-technology/?prx_t=zH8IAAAAAA&P8PA&utm_campaign=185027&prx_ro=s)



オルガノ株式会社

# ご清聴ありがとうございました

ホームページ

<https://www.organo.co.jp>

本資料は会社紹介を目的として制作しております。本資料における計画・予想等の数値は現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであるため、リスクや不確実性を含んでおり、実際の業績はこれと異なる可能性があります。